

## 原子力廃絶「自粛せぬ」

10年前の東京電力福島第1原発事故のあと、京都大原子炉実験所の小出裕章さんのインタビューなどを必死に読み聴いた。毎日新聞2日1面と4面「ストーリー」に、小出さんの写真と表題記事が大きく掲載されていた。小出さんの思いが伝わってくる「ストーリー」であり、1面を中心に抜粋して紹介する。

「原子力の場合」に身を置きながら原子力廃絶のための研究を続けてきた。元京都大原子炉実験所（現・複合原子力科学研究所）助教の小出裕章さん(71)は4月18日、移住先の長野県松本市から東京都港区の明治学院大を訪れた。「原発の終わらせ方」をテーマに講演するためだ。約80人を前にこう切り出した。

「ウイルスがまん延する中、よくおいでくださいました。私は町外れで『仙人生活』をしています。模範的な自粛生活だと思っていますが、感染拡大を防ぐ以上に原子力を止めることはもっと重要だと思っていますので、そのための行動は自粛しないと決めています」

この国では現在、2つの緊急事態宣言が発令されている。新型コロナウイルスの感染拡大で4月25日から4都府県に発令された3度目になる緊急事態宣言。もう一つが、東日本大震災での東京電力福島第1原発事故に伴い発令され、いまだ解除されない原子力緊急事態宣言だ。小出さんは雑誌への寄稿や近著で国の新型コロナ対策には原発政策と共通するものがあると指摘する。その一例として政府の旅行需要喚起策(Go To Travel)を挙げる。事業を始めた昨年7月22日の感染者数は795人で、第1波のピーク(694人)を上回った。だが、政府は人の移動が感染拡大につながるエビデンス(根拠)はないとの理由で年末まで継続した。そして福島第一原発も一。

小出さんは「原発は安全だと言って認可してきましたが、そのエビデンスはなかった。願望だけで原発事故は防げない。事実を正確に知ることはいかなる対策を考える時でも一番大切ですが、新型コロナの場合も感染実態を把握するための検査態勢がいまだに十分ではない」と指摘する。知人が運営するウェブサイトには2011年6月以降の講演記録が掲載され、実に400回を超す。一貫しているのは「差別や犠牲を強いるのが原子力の本質」という主張だ。過疎地に造られ、被ばく労働は下請け・孫請けの企業が担うからだ。

小出さんは45分間の講演の終盤、原発事故で強制避難中の人、自主的に避難をしている人らの間で分断があることに懸念を示した。「大切なことは被害者には多様な苦悩があることをお互いに認め合い、助け合って加害者と戦うことだと私は思います」。加害者は「原子力マフィア」と定義し「国を中心とする巨大な権力組織で、民衆の力は弱い。でもこの戦いを続けなければ、次の悲劇があることを覚悟しなければいけません」と訴えた。

(2021年5月10日)